

# 平成 23 年度 衛生管理者業務報告

## - 地震対策強化と化学物質管理の徹底を目指して -

須恵耕二<sup>A)</sup>，今村康博<sup>B)</sup>，戸田善統<sup>C)</sup>

<sup>A)</sup>電気情報技術系，<sup>B)</sup>生産構造技術系，<sup>C)</sup>環境建設技術系

### 1 はじめに

今年度，所属する事業場では，昨年度に起きた東日本大震災の被災状況（情報）および昨年度本学で実施した全学対象の薬品調査の調査結果より，“地震対策強化”と“化学物質管理の徹底”の2項目を最重点項目に掲げ，不具合ゼロを目指した取組みを通常の職場巡視とは別に実施した．その取組みについて報告する．

### 2 地震対策強化と化学物質管理の徹底に対する取組み

実施要領は，先ず，【作業場管理者によるセルフチェック】を実施後，【衛生管理者によるフォローアップ調査（セルフチェックの再確認）】を実施した．なお，実施期間は，上半期（4月～9月）に“地震対策強化”を，下半期（10月～3月）に“化学物質管理の徹底”とし，作業場管理者のセルフチェックを1ヶ月間，衛生管理者のフォローアップ調査を3ヶ月間，前後1ヶ月を事前準備，調査期間の調整に充てた．

#### 2.1 通常の職場巡視との相違点と付加的な効果

本取組みと衛生管理者が実施する通常の職場巡視との相違点と付加的な効果について以下に記す．

- ・ 衛生管理者は，巡視対象項目を絞ることで，通常の職場巡視と比較し，詳細な確認が可能．
- ・ 実施期間内は，作業場管理者と衛生管理者の視点が同一であるため，共通認識（理解）が得やすい．
- ・ 不具合に対する改善を作業場単位ではなく，フロア・建物・区域（部局など）単位で実施可能．

#### 2.2 地震対策強化について（対象項目およびフォローアップ調査結果）

地震対策強化の対象項目は，棚・ロッカーなどの転倒防止および落下防止対策の有無，室内および共有スペースの避難経路（通路）の状態，防災（消防）設備の状態である．フォローアップ調査結果は，全項目でセルフチェックの効果により，早急な改善を要する不具合は少なかった．しかし，転倒防止および落下防止対策では，対策済みの対象物の固定方法（強度不足）などの不具合が確認された．

#### 2.3 化学物質管理の徹底について（対象項目およびフォローアップ調査結果）

化学物質管理の対象項目は，化学物質標識（有機溶剤区分など）の適切な掲示，化学物質（毒劇物など）および廃液の適切な管理状況，本学の薬品管理支援システム（YAKUMO）への登録状況である．調査結果は，地震対策強化同様，セルフチェックの効果により，化学物質および廃液の管理状況およびシステムへの登録状況に対する不具合は少なかったが，標識の掲示場所の不適切さなどの不具合が確認された．

### 3 まとめ

本取組みを実施し，安全衛生管理上の対象項目は限定されるが，不具合ゼロの目標に対し，飛躍的な前進を実感した．また，鈍化傾向にあった安全衛生管理に対する意識の向上も同様に実感した．今後も，対象項目を変えて実施し，本学の目標である“安全で快適な職場環境の形成”に向けて取組んでいきたい．